

取扱説明書／ 取付設置説明書

お施主様用
この書類にはお施主様への大切なご連絡事項が記載されています。
必ずお施主様にお渡しください。
施工業者様用

株式会社 ウッドワン フリーダイヤル
お客様相談室 **0120-641-265**
(キッチン専用フリーダイヤル)
受付時間【平日・土日祝】9時～18時 ※年末年始・夏期休暇を除く
●土日・祝日の受付のみ。対応は翌営業日以降となります。
●電話または訪問にて状況をおうかがいした後、改めて修理訪問させていただく場合がございます。
●不明な点は、お気軽にご相談ください。

引き戸 収納

このたびはウッドワンの商品を御利用いただき、誠にありがとうございます。
取付・設置前にこの説明書をよくお読みいただき、安全に正しく取付設置されるようお願い致します。

安全上のご注意(必ずお守りください)

取付・設置される人への危害を未然に防止するためと、お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するために、
取付・設置においては、必ずお守りいただくことを次に説明しています。

- 表示内容を無視して誤った取り付けをした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

	警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示の欄は「障害を負う可能性または物理的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は図記号の一例です。)

	この図記号は、してはいけない「禁止」内容です。
	この図記号は、必ず実行していただく「強制」内容です。
	この図記号は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

		分解禁止	絶対に分解したり、修理・改造したりしない。 落下して、ケガの原因となります。
		禁止	製品に乗ったり、ぶら下がったりしない。 製品が外れたり破損したりして、ケガの原因となりますので、絶対にしないでください。
		必ず行う	確実にキャビネットと壁面を固定する。 キャビネットがあらかじめ間柱・補強材等の下地処理を施した壁面と固定されていないと、キャビネットが転倒してケガの原因となりますので、確実にキャビネットと壁面を固定してください。
		必ず行う	取付・設置は建築壁の構造を確かめて正しく取り付ける。 思わぬ事故や故障の原因になることがあります。
		必ず行う	キャビネットの固定には、必ず指定のねじ(ビス)を使用する。 使用しないと、キャビネットが落下して、ケガの原因になります。
		必ず行う	取付・設置完了後は、扉の傾き、ガタつき、丁番のゆるみのないことを必ず確認する。 扉の取付に異常があると、使用中に落下してケガをするおそれがあります。
		必ず行う	取付設置で使用するねじを固定する場合は、必ずドライバーで行い、締めすぎによるねじの空回り、折れ、頭(スリワリ)つぶれのないようにする。 固定ねじ用ねじがきかないと、キャビネットなどが落下してケガの原因となります。
		必ず行う	壁下地材は厚み30mm以上、幅90mm以上を使用する。 取り付け部の強度が不足している場合は補強する。
		必ず行う	キャビネットを設置する際には水平・垂直のレベルを出す。

- 湿気の多い場所は、木部が水を含んで腐ったりするおそれがあるので避けてください。
○直射日光が当たる場所、火気の近くは、変色・変形のおそれがあるので避けてください。
○製品を固定する壁面は平らに、かつ床面に対して垂直に仕上げてください。
幅木や廻り縁などがある場合は、建築側と調整して製品が壁面にすき間なく固定できるようにしてください。
○設置する取り付け壁の強度を確認し、不足している場合は補強してください。
○木材塗装部にアルコール・シンナーなどの薬品を付着させないでください。塗膜が変色したりツヤが変化するおそれがあります。

本製品について

本製品は上吊り引き戸仕様です。上吊り式のレールとローラーにより、扉は軽い力でなめらかに動きます。
扉の閉じ際、開き際においては、ソフトクローザー部品により、扉の勢いをダンパーで吸収しゆっくりと引き込みます。

耐荷重に
ついて



注意

- ◆耐荷重を守ってください。
◆割れやすい物や鋭利な物を不安定な状態に置かないでください。
落下・転倒破損によりケガの原因となります。

棚板: 10kg 底板: 10kg
※天板には物を置かないでください。

取付設置をする前に

【壁面の取り付け下地材の確認】



警告



必ず行う

- 壁面の取り付け下地材の位置を確認する。
- 壁面の下地材が強固に固定されていることを確認する。
- 下地材は虫食いや腐れのない木材をご使用ください。(大工事)
下地材の取り付けが不完全な場合、キャビネットが落下してケガをするおそれがあります。

【建築壁について】

- 建築壁には、かならず下地材(桟木、合板)を取り付けてください。(大工事)
- 下地材が桟木の場合は堅木で虫食いや腐れのない木材、厚み30mm以上を使用してください。
- 建築壁には代表的なものとして以下の種類があります。

木質壁

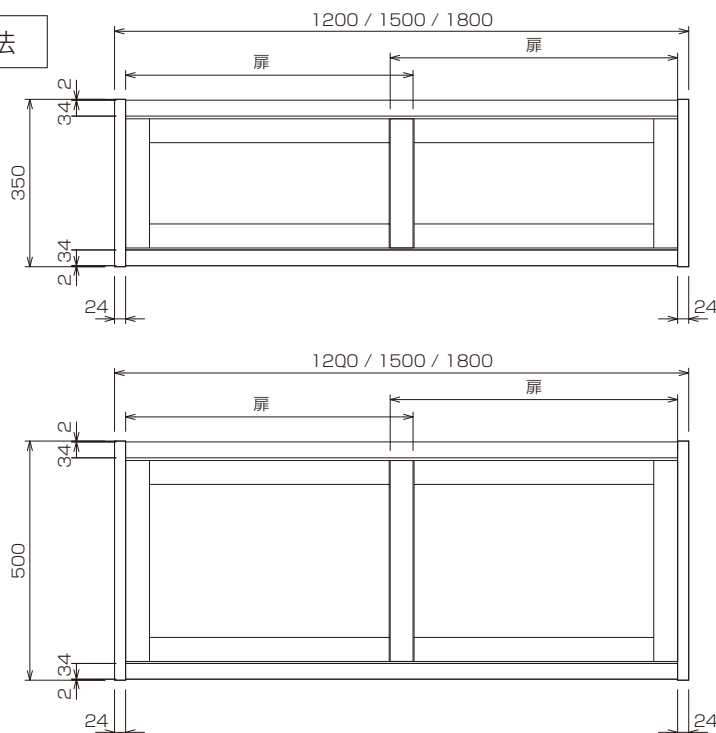
軽量鉄骨壁

ALC壁

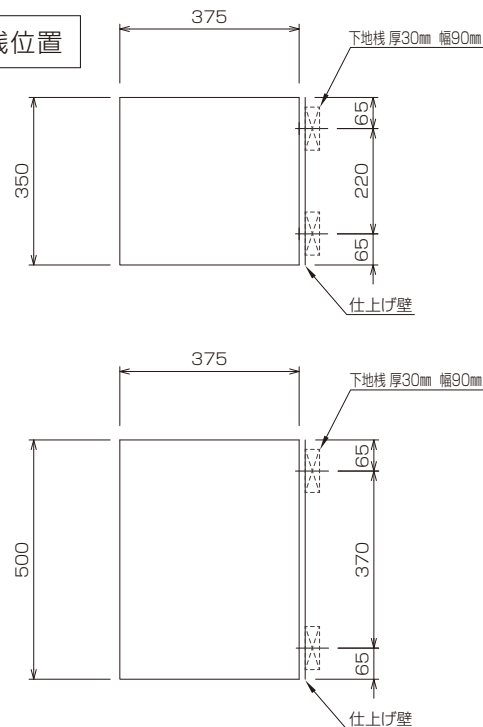
RC壁

- 取付設置図面通りに、下地材(桟木・合板)などの工事が完了していることを確認する。 ※修正が必要なものは、修正工事依頼をすること。

製品寸法

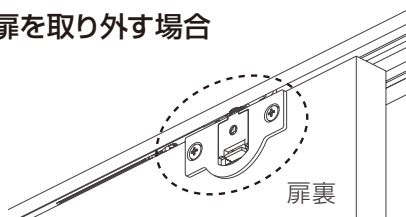


下地材位置



扉の取り外し・取り付け

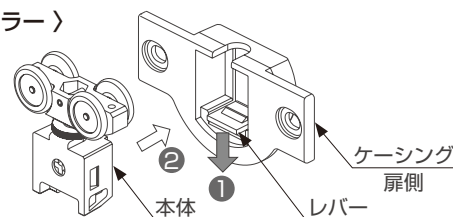
● 扉を取り外す場合



扉裏の上ローラー(ケーシング)の
レバー①を押しながら、
扉を手前方向②に引き抜く。

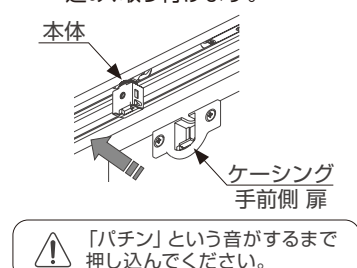
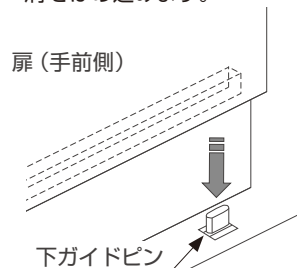
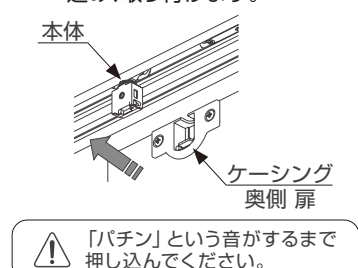
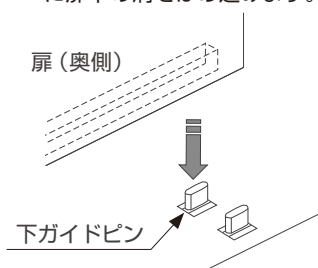
⚠ 扉の転倒にご注意ください。

〈上ローラー〉



● 扉を取り付ける場合(吊り込み)

- 1 キャビネット奥側の扉から取り付けます。下ガイドピンの凸部に扉下の溝をはめ込みます。
- 2 奥側の扉裏面のケーシングの凹部に上ローラー本体を押し込み、取り付けます。
- 3 キャビネット手前側の扉を下ガイドピンの凸部に扉下の溝をはめ込みます。
- 4 手前側の扉裏面のケーシングの凹部に上ローラー本体を押し込み、取り付けます。



注意



必ず行う

扉を取り付けたら、傾き、ガタつき、ゆるみがないことを必ず確認してください。
使用中に落下して、ケガをするおそれがあります。

キャビネットの取り付け

注意



注意

取り付け位置に下地材があるか確認してください。

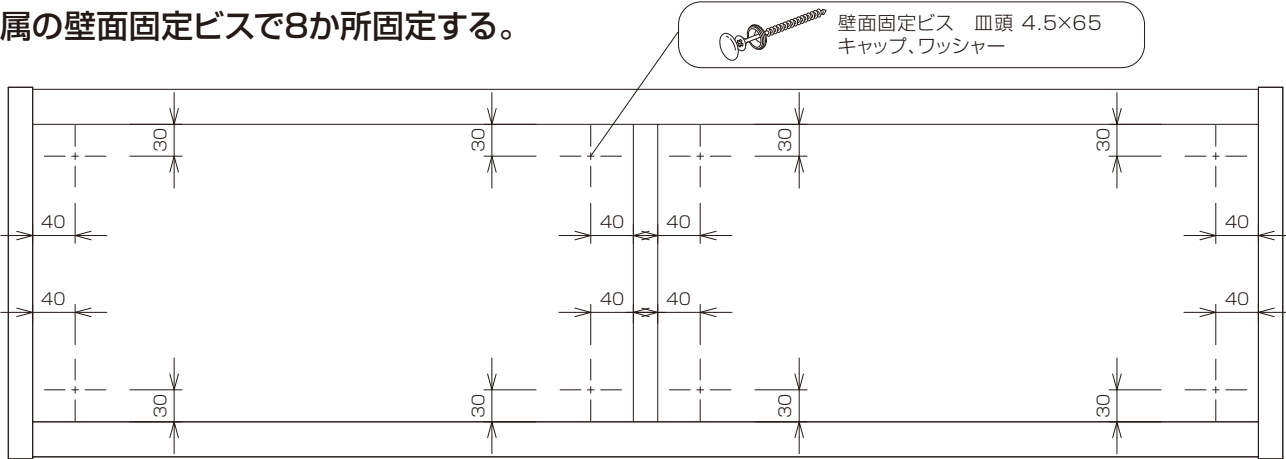


必ず行う

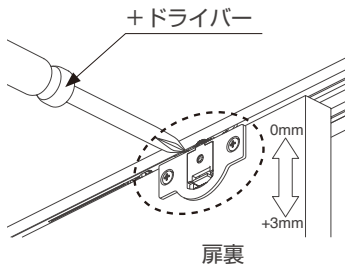
ビス固定する場合は下穴をあけてください。部材が割れるおそれがあります。

キャビネットを設置するには水平・垂直のレベルを出してください。
取付後にガタつきがないか確認してください。

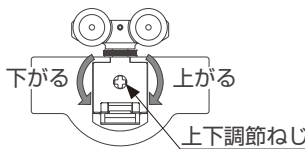
● 付属の壁面固定ビスで8か所固定する。



● 扉の上下調整

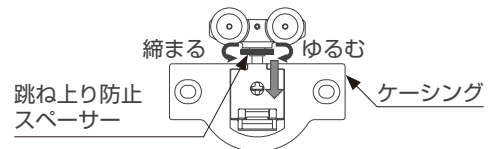


1 上ローラーの上下調整ねじを調整方向に回してください。



⚠ 上ローラーは出荷時は上下調整範囲の一番上の位置です。

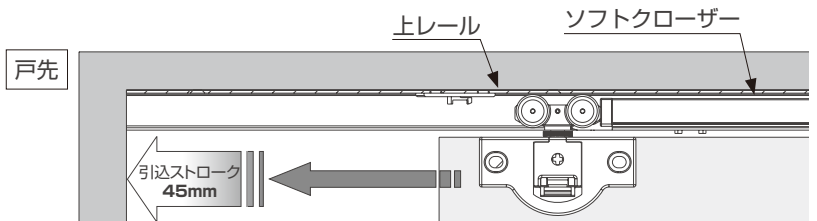
2 調整後、跳ね上げ防止スペーサーを指で回してケーシングの上面まで下げて締めてください。



⚠ 再び上下調整する際は、一旦、跳ね上げ防止スペーサーをローラーの下面まで上げてから行ってください。

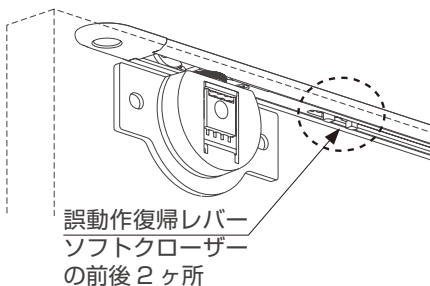
● ソフトクローザーの動作確認

- 1 扉を戸先側にゆっくり動かし、扉の閉じ際の手前からソフトクローザーが作動し、最後まで扉が閉まりきるか確認してください。
- 2 同様に、扉の戸尻側のソフトクローザーも動作確認をしてください。
※扉の引き残しが設定されている場合は、引き残り位置で止まります。

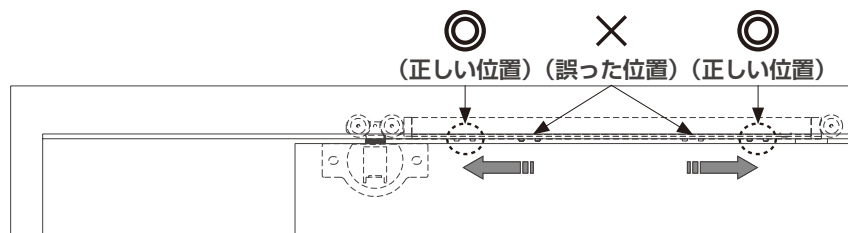


● 扉が閉じ際・開き際でゆっくり引き込まれない場合

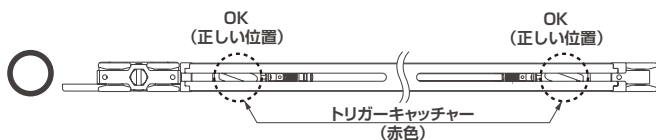
ソフトクローザーのトリガーキャッチャーが外れていることがあります。



- 1 扉を中間位置に移動させ、誤動作復帰レバーの位置を確認してください。
- 2 NG位置の場合、扉を保持しながらマイナスドライバーなどで、誤動作復帰レバーを矢印の方向に移動し、正しい位置にセットしてください。



下から見上げた図



お手入れ

お手入れ キャビネット・扉

⚠️ お手入れの注意



禁 止

シンナー・ペンジン・アセトン・塩素系漂白剤・アルコール（消毒用エタノールを除く）や薬品類などは使用しないでください。
また、酸性洗剤・アルカリ性洗剤・粉末クレンザーも使用しないでください。
変色や劣化のおそれがあります。



必ず
おこなう

お手入れには中性洗剤を使用してください。

酸性やアルカリ性、シンナーなどの洗剤、除光液、毛染め剤が付着したまま放置すると変色や劣化のおそれがあります。

お手入れポイント

いつまでも美しさを保つために、日頃から水滴や汚れなどをすぐに拭き取ってください。

- 水で濡らした柔らかい布で汚れを拭いてください。
- しつこい汚れは中性洗剤をつけて拭き取ってください。その後に、水拭きをして洗剤を完全に拭き取ってください。最後に水分が残らないように乾いた布で拭いてください。

扉・キャビネットについて

扉框部：無垢材／扉鏡板部：無垢材(集成材) キャビネット：天然木突板、MDF、PB

無垢材や天然木突板を使用していますので、一枚一枚木目や色調が異なりますし、多少の色のばらつきが生じることがあります。

また、お使いいただいている間に日光などの紫外線によって様々な色が変わることがあります。

このような木製品特有の性質を、ご理解くださいますようお願いいたします。

■ 困ったときの対応

症状	チェックポイント	対処方法
ソフトクローズしない。	扉が閉じ際・開き際の手前で止まっていますか？	ソフトクローザーの誤動作復帰レバーの位置を確認し、位置が正しくない場合はレバー位置を復帰してください。 詳細は「扉が閉じ際・開き際でゆっくり引き込まれない場合」を参照してください。
	扉を勢いよく閉じていませんか？	扉を勢いよく閉じた場合、ソフトクローズ機能が十分に発揮されず故障の原因になりますので、おやめください。
ソフトクローズの途中で止まってしまう。	扉下面が底板にこすっていますか？	上レールを取り付けているねじにゆるみがないか確認します。 ねじがゆるんで上レールが下がっていたら、ねじを増し締めしてください。 扉の上下調整を行い、適切な隙間に設定してください。 詳細は「扉と上下調整」を参照してください。
	上レール内に取り付けたトリガーが変形していませんか？	トリガーの取付ねじを強く締めつけすぎると、トリガーが変形してしまい、ソフトクローザーとこすってしまう場合があります。変形してしまったトリガーは新品と交換し、改めて取り付け直してください。
扉の開閉時に異音が発生する。	上レール内にごみやアルミの切り粉がついていませんか？	上レール内を掃除し、異物を取り除いてください。
	上レールやトリガーの取付ねじがゆるんでいませんか？	ソフトクローザーがねじ頭にこすっていますので、ねじを締め直してください。
扉の開閉が重い。	上レールが反りや変形していませんか？	キャビネット天板の上レール取付溝加工が適切でないと、上レール内が狭まり、上ローラーとこす場合があります。天板の加工溝を修正してください。